

指導助言準備シートの活用について

1. 作成の背景と目的

令和6・7年度における大阪府教育センター小中学校教育推進室の調査研究では、指導主事には、専門性に加えて、教員との対話を通じて授業改善を支える関わりが、より重要になっていることが分かってきました。

また、学校の状況の多様化、指導主事の経験年数の幅広さ、準備時間の制約といった実情も見えてきました。

これらを踏まえ、限られた時間でも助言の方向性を整理しやすくし、経験年数にかかわらず効果的な指導助言を行うための補助的ツールとして、本シートを作成しました。

2. 指導助言において大切にしたい視点

調査研究を踏まえ、指導助言において大切にしたい視点を次のように整理しました。

① 対話

対話を通して、教員の思いや願いを引き出すこと

② 根拠に基づく価値づけ

学習指導要領をよりどころとし、授業中の子どもの姿を根拠に、学習指導案の意図と照らし合わせながら、授業のよさや課題を具体的に価値づけること

③ 次の行動への支援

教員が次に取り組む行動をイメージできるよう支援すること

これらの視点を指導助言の場面で生かすためには、教員の主体性を尊重した「コーチング的な力」が重要になります。

教員の主体性を尊重しながら授業改善を支援するコーチング的な力

- 傾聴する力 …… 教員の思いや願いを丁寧に受け止める力
- 質問する力 …… 考えを引き出し、気づきを促す力
- 承認する力 …… 教員の努力や成果を肯定的に伝える力
- 提案する力 …… 次の一歩につながる選択肢を示す力
- ファシリテートする力 …… 協議の場で対話を促す力
- フィードバックする力 …… 子どもの姿を根拠に価値づける力
- リクエストする力 …… 改善に向けた具体的な行動を促す力

3. シートの構成(4つのステップ)

指導助言において大切にしたい3つの視点を、事前準備から事後の振り返りまでの流れの中で生かすために、本シートを次の4つのステップで構成しています。

① 事前打ち合わせ前チェックリスト

学校訪問前に押さえておく基本情報を整理します。

② 事前打ち合わせ

学校の研修のねらいや実態を共有し、当日の視点を明確にします。

③ 当日までの準備チェックリスト

指導案の確認とともに、学習指導要領に基づき、「この授業で深い学びとなっている子どもの姿は何か」を事前に想定します。

④ 次回に向けた課題／その解決に向けて学校と確認しておきたいこと

授業後の協議を踏まえ、次につながる視点を整理します。(例:授業者の気づき、次の行動、学校としての課題など。)

4. 活用上の留意点

- チェックリストのみを活用するなど、必要な欄を選択して使用することができます。
- 市町村独自の様式がある場合は、既存の様式と併用し、不足する部分を補う形で活用することができます。
- 市町村の実情に応じて、本シートを柔軟に工夫して使用することができます。



コラム〈指導主事の立場になる機会を得たみなさんへ〉

総則部会に参加するみなさんへの期待

- 変化を意識し、挑戦し続ける
- 広い視野で、俯瞰し捉える
- 連携し、協働して取り組む
- リーダーとして、組織を活性化する
- 常に学校現場を基盤に、子供と教師の姿を思い描いて

言葉と振る舞い

令和6年度小学校及び中学校各教科等担当指導主事連絡協議会総則部会において、田村学主任視学官より、左のスライドが示されました。

指導主事一人一人の言葉と振る舞いは、学校や教員の取組みを通して、子どもたちの学びにつながっていきます。

本シートの活用を通して、学校や教員、そして子どもたちの学びを豊かにしていくことを期待しています。

令和6年度小学校及び中学校各教科等担当指導主事連絡協議会総則部会配付資料より引用

① 事前打ち合わせ前チェックリスト

- 学校の基本的な状況は調べたか
(アクセス・児童生徒数・教職員数等)
- 当該校の研究に関する情報は調べたか
(学校教育目標・研究主題等)
- 当該校の各種調査結果等を確認したか
(全国学力学習状況調査・すくすくウォッチ等)
- 学習指導要領や解説を確認したか

【Memo (評価できることは特に)】

全国学力・学習状況調査の結果から、国語科では「根拠を基に考えを説明する力」が課題

↓

学校教育目標・研究主題…「考えを形成し、伝え合う力」を重視

単元の重点目標…文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思、判、表]C(1)オ

③ 当日までの準備チェックリスト

根拠に基づく価値づけのために

◇単元目標・計画について

- 単元を通して子どもに身に付けさせたい力が明確か
- 評価の計画、方法、タイミングは適切か

【Memo (単元内容についてなど)】

- ・目標は「考えの形成」
→本時の学習活動が「感じたこと」の交流に寄り、感想共有に留まる可能性
- ・特定の場面・叙述を根拠に、人物像を一文でまとめ、交流後に考えを書き直す学習活動を提案

- ◇本時の指導計画について
- 目標は単元の目標とズレがないか
(子どもに身に付けさせたい力は明確か)
 - 研究主題を捉えた内容か
 - 主体的・対話的で深い学びの要素はあるか
(課題の「自分事」化、思考の可視化、比較・関連付け、対話による思考の深化、次につながる振り返り等)
 - 評価は適切に行うように計画されているか
 - ICTの活用は効果的か
 - 個に応じた指導の充実は図られているか

あらかじめ、学びが深まったときの子どもの姿をできるだけ具体的に想定しておくことで、授業中の子どもの様子を根拠をもって捉えやすくなる

【期待される「深い学び」の具体的な姿】

- ・序盤と終盤の豆太の行動を比べ、「同じところ」「変わったところ」に着目して表現している
- ・行動や会話文を根拠に、「なぜそう考えたのか」を説明している
- ・友だちの考えを受けて、自分の考えの良さに気付いたり、書き足したりしている

② 事前打ち合わせ

日時 令和〇年〇月〇日 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇 場所 〇〇小学校 会議室

授業者: 〇〇教諭 対象学級 <<第3学年〇組(〇人)>>
 教科・単元(題材)【国語】・『登場人物について考えたことを、つたえ合おうー「モチモチの木」(光村図書)ー』

【学校の研究主題と取組み概要】

- ・研究主題「子どもが考えを形成し、言葉で伝え合う授業づくり」
- ・児童は叙述を根拠に考える経験が少ない
- ・教員が子どもの思考の変容をどう見取るかが課題

【学校の今回の研修のねらい】

- ・叙述や場面の移り変わりを基に、子どもの考えがどのように形成・変容したかを、発言や記述から見取る視点を共有する
- ・子どもの姿を根拠に、授業を振り返り、指導改善につなげる

本項目では、単元や授業の目標に照らして、子どもの発言や記述など、学習の様子が分かる具体的な姿を記入する

【学校・学級の子どもの様子】

- ・登場人物の気持ちに寄り添って読むことは多くの児童ができる
- ・感想は「かわいそう」「すごい」「やさしい」など感情語が中心の児童が多い
- ・叙述を根拠に説明する経験が少ない
- ・友だちの意見を受けて考えを見直す過程の言語化は、今後のポイント

【先生方の様子(経験年数の構成や研究への取組み状況等)】

- ・経験が少なく、国語の授業づくりに不安を感じている教員が多い
- ・全体として「子どもの考えを大切に」という意識が高い
- ・評価規準と見取りのつながりに悩む教員が多く、指導と評価の一体化に課題感あり

【Memo (※打ち合わせを通して学校と合意した事項は、必ず記録しておく)】

- ・授業⇒協議(45分)⇒指導助言(20分)
- ・討議の柱:文章理解を根拠に、交流を通して考えを深めることができたか
- ・協議の流れ:①子どもの読みの実態 → ②根拠(発言・記述) → ③次へのつたえ
- ・指導と評価の一体化に触れる内容を入れる
- ・短いワーク(評価規準×見取り)を実施

【指導助言者としての研修当日のねらい(当日 学校に考えてもらいたいこと・教員に獲得させたい新しい視点等)】

- ・「豆太は変わったのか」という問いが、叙述や場面の移り変わりを基に、子どもが考えを深める問いとして機能していたかを確認する
- ・授業中の子どもの行動・発言・記述を、評価規準の観点から意味づけ、思考の形成・深化・更新として見取る視点をもたせる

【研修の構想・資料の作成】

【研修当日のねらい(教員に身に付けさせたい力)】

- ・問いが、叙述を基に子どもの考えを深めるものになっていたかを確認する
- ・子どもの行動・発言・記述を、評価規準に照らして適切に評価する

【そのための主な方法(参加者の活動・協議)】

- ・子どもの発言・記述を基に、評価規準に照らして思考の形成・深化・更新を評価するワークを行う
- ・その評価を根拠に、問いが有効であったかを協議する

【構想(授業・協議の見方、指導助言のポイント等)】

- (授業) ・「問い」は、考えを形成し始めるきっかけになっていたか(問いの場面での児童の様子)
・「対話」や「教員の問い返し」は、考えを深めるきっかけとなっていたか(理由付け、比較、叙述を確かめ直す等)
- (協議) ・考えの見直しや更新など、考えの深化が子どもの発言や記述にどう表れていたかに触れた発言を拾う
- (指導助言) 子どもの姿と、学習指導要領に示された「考えの形成・深化」の視点を根拠に、問い「豆太は変わったのか」の有効性を価値づける
→ 人物像の一貫性と変容を比べさせていたか
→ 考えの更新につながっていたか

「自分の考え/理由(根拠)/具体例」の三点をそろえて話すことを意識することで、相手の納得につながる指導助言が行いやすくなる

【他校や他市町村等の参考となる事例】

- ・交流前後で、自分の考えがどう変わったか(変わらなかったか)を言葉で振り返らせる実践(市町村内の事例より)
- ・「豆太は変わったか」などの立場を明確にし、本文を根拠に説明させる学習(府教育センターの資料より)

当日の振り返り整理

④ 次回に向けた課題/その解決に向けて学校と確認しておきたいこと

- ・子どもの人物理解が感想レベルに留まりやすい
→文章理解を根拠に、交流を通して考えを深める学習場面を、単元全体の中にどのように位置付けるかについて確認する
- ・教員間で、評価規準を授業中の子どもの姿と結び付けて見取る視点が十分に共有されていない
→評価規準を、授業中の子どもの発言や記述と結び付けて見取る視点を、校内でどのように共有していくかについて確認する

対話を通して確認すること

次の行動への支援のために